

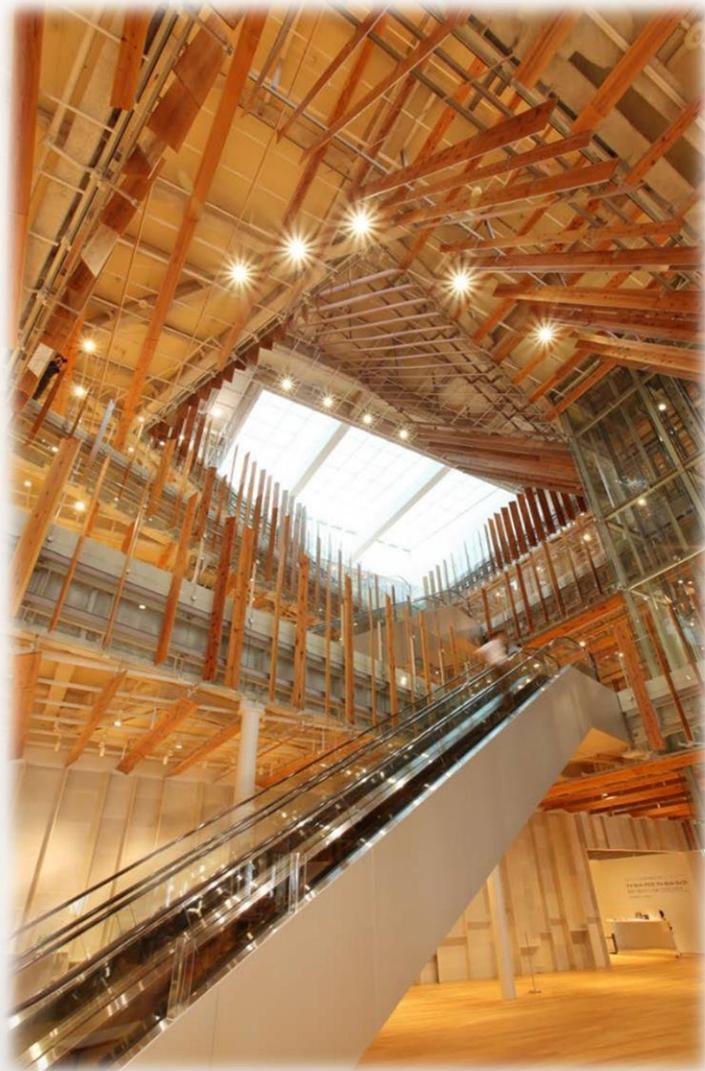
～ お客さまファーストの銀行へ ～



THE FIRST BANK OF TOYAMA

2025年3月期  
決算概要

2025年5月13日



富山市ガラス美術館

## ニューヨーク・タイムズ紙 「2025年に行くべき52カ所」の 一つに「富山市」が選出され、 隣接の「富山市ガラス美術館」が紹介

2025年1月7日にアメリカの「ニューヨーク・タイムズ紙」が「2025年に行くべき52カ所」を発表し、その一つに富山市が選ばれました。

記事では、毎年9月に開催され多くの方が来訪する「おわら風の盆」のほか、世界的な建築家である隈研吾氏が手掛けた「富山市ガラス美術館」についても取り上げられています。地元の木材をふんだんに使った館内は、とても温かみがあり明るい気持ちにさせてくれる独特の雰囲気があります。

当行の本部や本店営業部は、このガラス美術館や市立図書館と同じ建物(TOYAMAキラリ)内で隣接しております。

是非、一度お立ち寄りください。

連結(百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前年比
経常収益	38,678	48,513	9,835
経常利益	9,223	18,959	9,736
親会社株主に帰属する当期純利益	5,284	13,354	8,070

単体(百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前年比
業務粗利益	17,878	21,380	3,501
(除く 国債等債券損益)	21,430	22,826	1,396
資金利益	20,646	22,007	1,360
役務取引等利益	1,444	1,581	137
その他業務利益	△ 4,212	△ 2,208	2,003
うち国債等債券損益	△ 3,551	△ 1,446	2,105
経費(除く 臨時処理分) (△)	11,735	12,764	1,029
人件費 (△)	5,540	5,888	348
物件費 (△)	5,283	5,729	445
税金 (△)	910	1,146	235
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	6,143	8,616	2,472
コア業務純益	9,695	10,062	367
(除く 投資信託解約損益)	8,474	9,634	1,159
一般貸倒引当金繰入額 (△)	179	—	△ 179
業務純益	5,964	8,616	2,651
臨時損益	2,922	10,612	7,689
うち株式等損益	5,777	10,405	4,627
うち不良債権処理額 (△)	2,736	△ 2	△ 2,738
経常利益	8,887	19,228	10,341
特別損益	△ 310	8	319
当期純利益	5,204	13,951	8,746

## 2025年3月期 連結決算の概要

親会社に帰属する当期純利益  
13,354百万円(年率152.7%増) **4年連続の大幅増益**

当期はバーゼルⅢ最終化を見据え、有価証券含み益の一部を実現益として計上し、100億円を自己資本へ積み上げ

## 2025年3月期 単体決算の概要

コア業務純益(除く投資信託解約損益) **9,634百万円(年率13.7%増)**

経費は物件費・人件費ともに増加も、貸出金利息・有価証券利息配当金の大幅増加等により、銀行の本業利益を表すコア業務純益は、**4年連続増益となり、過去最高益を更新**

経常利益 **19,228百万円(年率116.4%増)**

コア業務純益の増加に加え、株式等損益が計画どおり計上できたことや与信関係費用の減少により、**前年の2倍超の経常利益を記録**

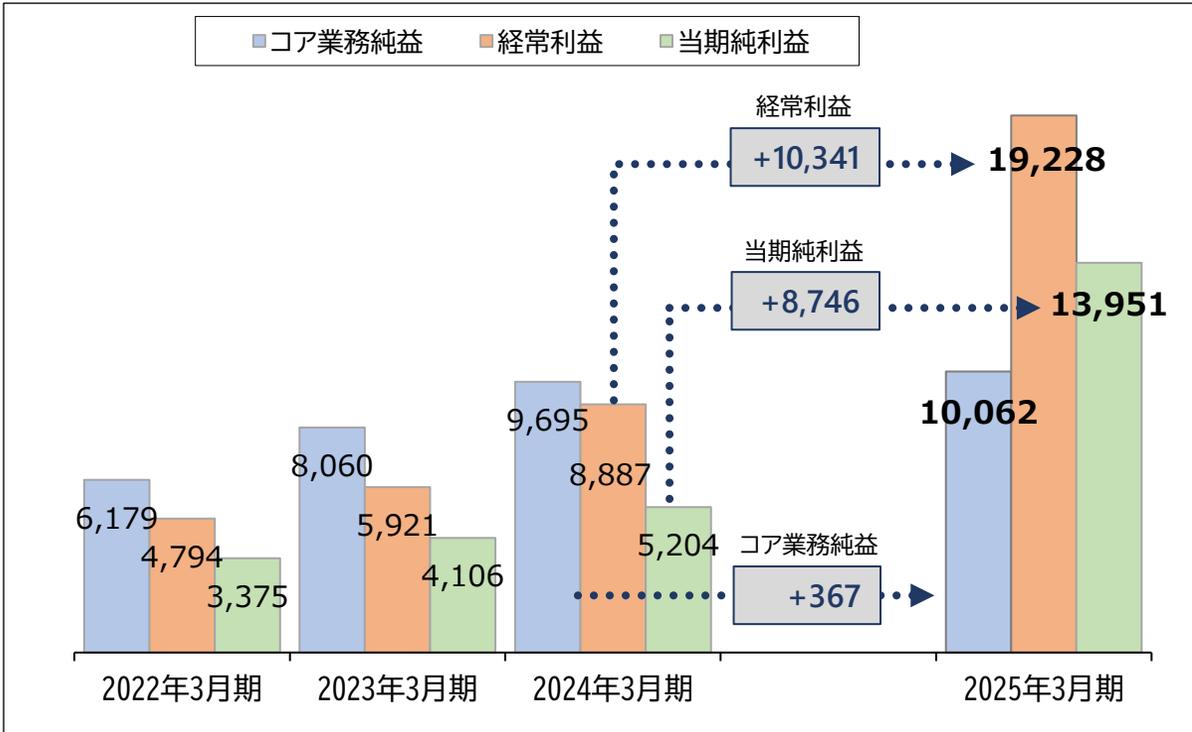
当期純利益 **13,951百万円(年率168.1%増)**

期初に計画した業績予想を更に上回る**過去最高の当期純利益を計上**

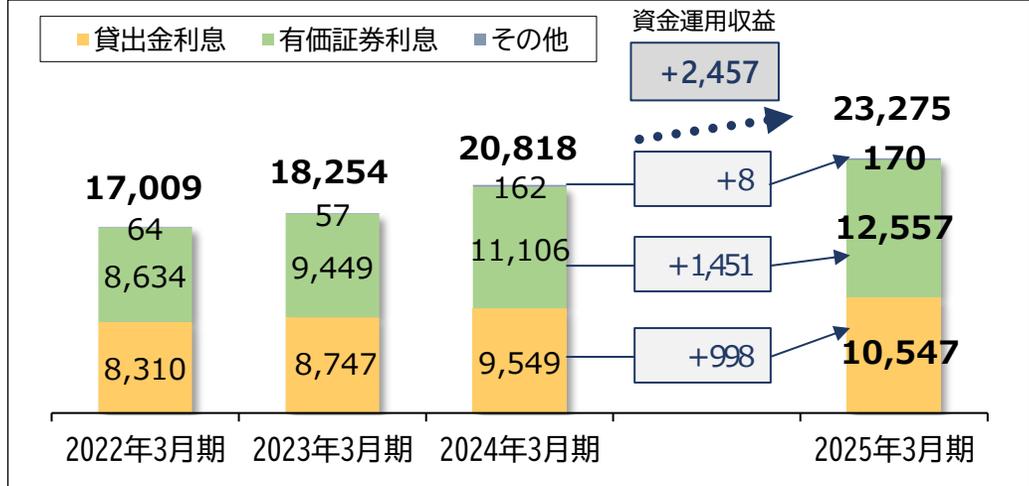
# コア業務純益の推移

- ☑ 貸出金利息・有価証券利息配当金などの資金運用収益の増加から、銀行の本業であるコア業務純益は**過去最高益を更新**
- ☑ 役務手数料は法人部門のコンサルティング手数料の増加から、**4年連続の増加**

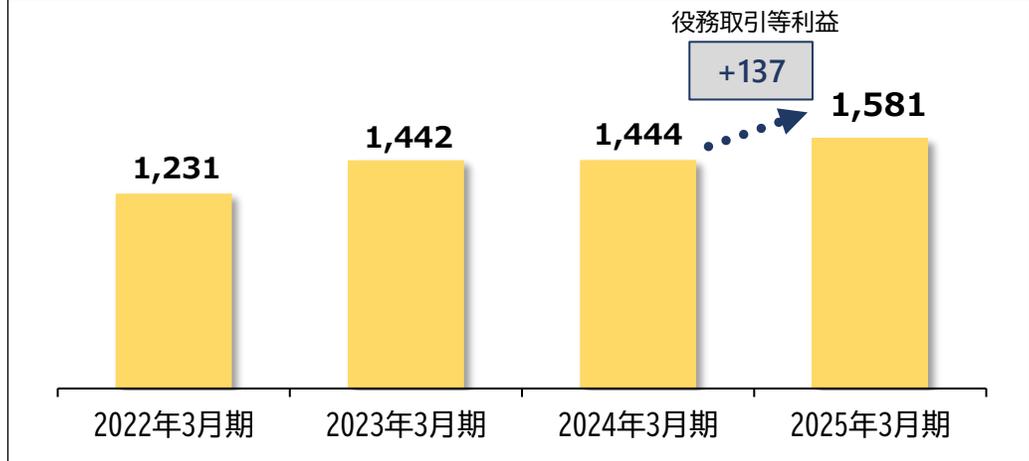
## コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移(百万円)



## 資金運用収益の推移(百万円)

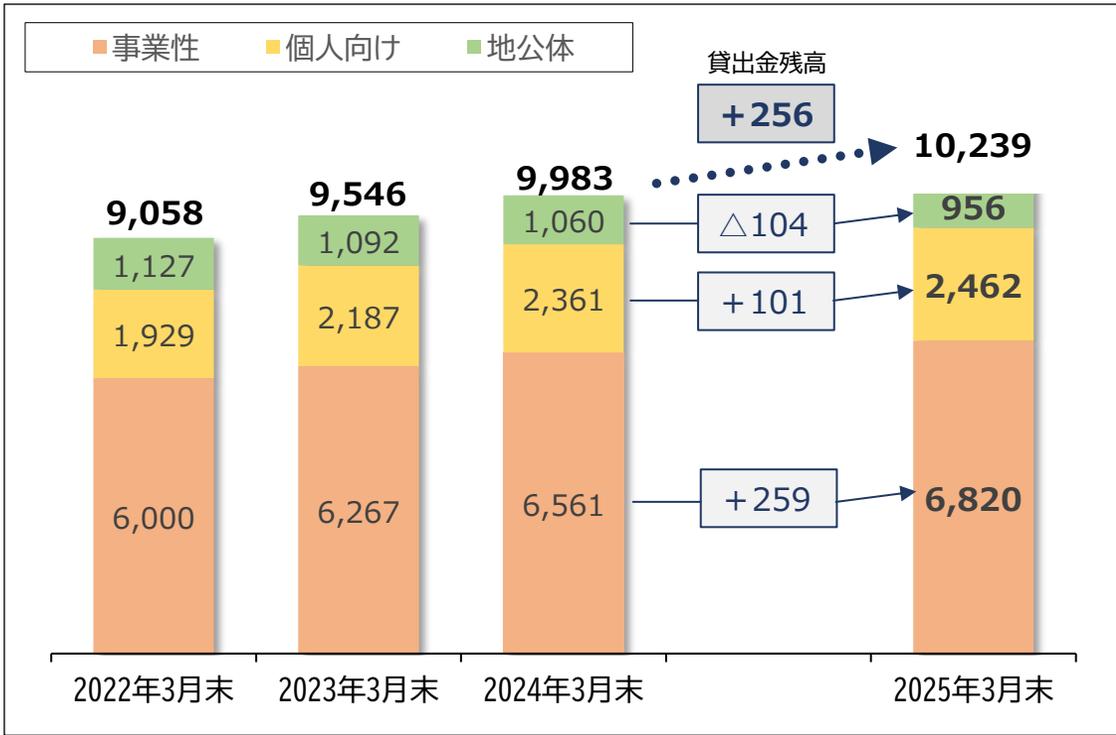


## 役務取引等利益の推移(百万円)

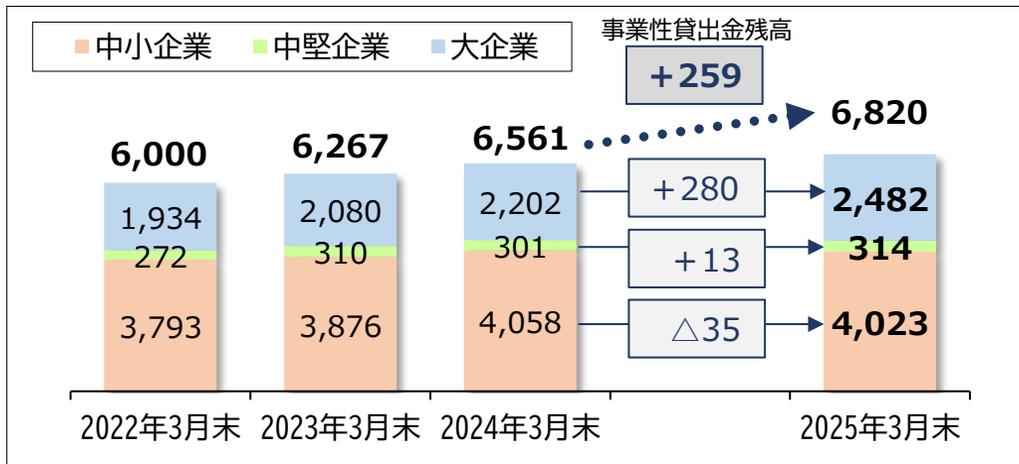


- ☑ 貸出金残高は着実に増加し、**年度平残1兆円超えを達成**
- ☑ 引き続き中小企業向けをメインとする事業者向け融資が増加したことに加え、住宅ローンを中心に個人向けローンも着実に増加

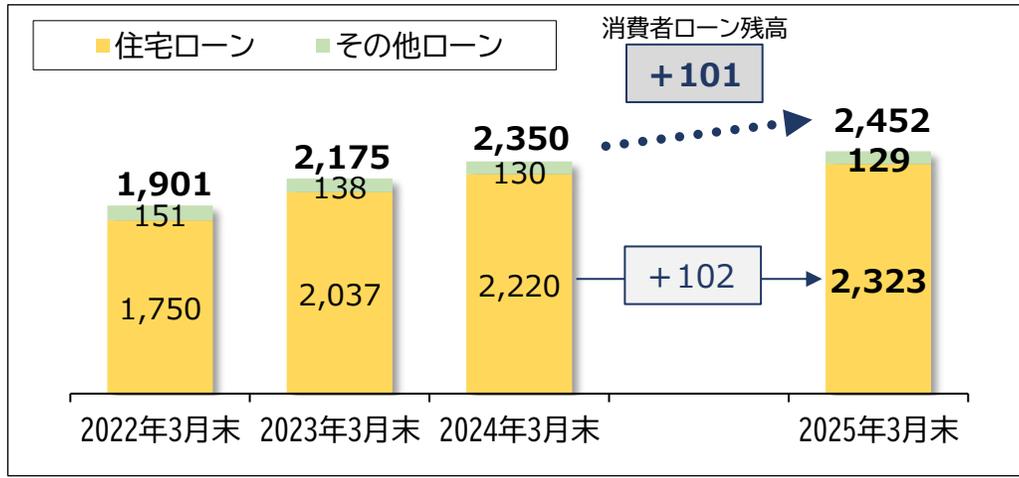
貸出金残高の推移(億円)



事業性貸出金残高の推移(億円)

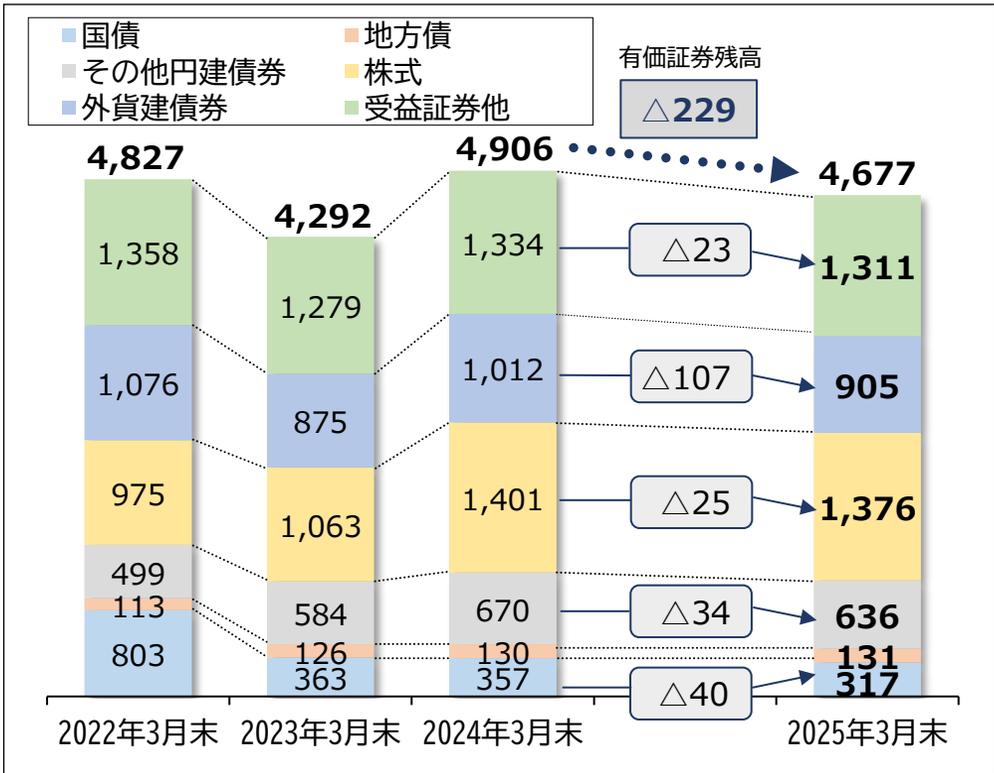


消費者ローン残高の推移(億円)

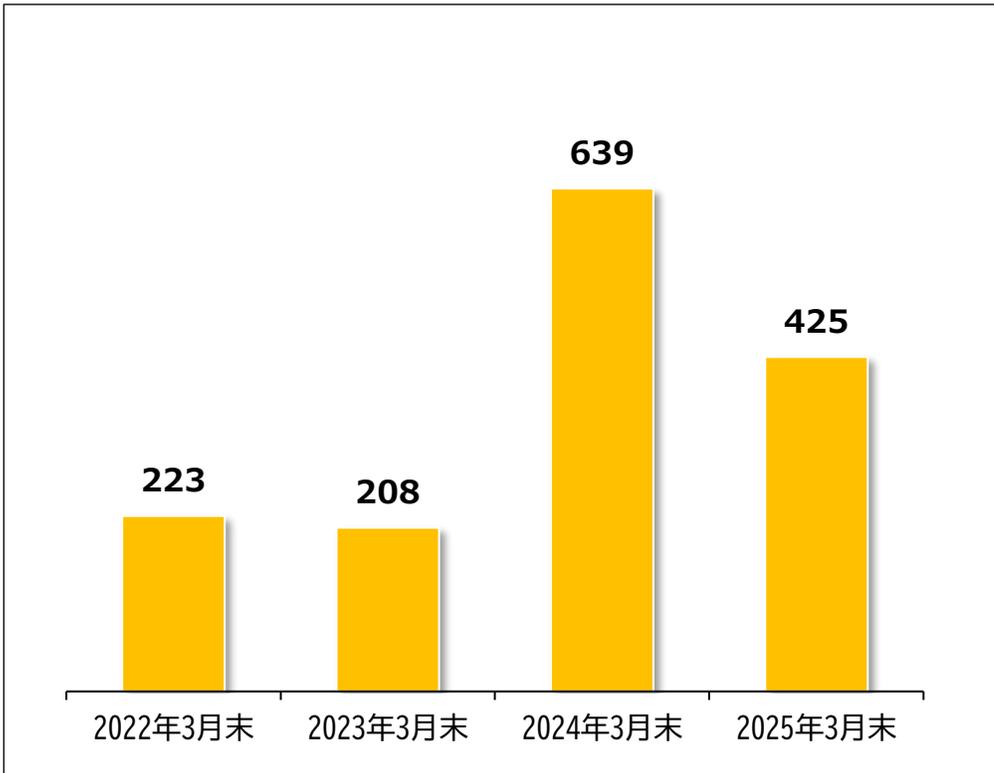


有価証券は、国内金利・株価等の動向を見極めつつ、機動的に入れ替え。最適なポートフォリオを維持  
 25年3月末における「その他有価証券評価損益」は、多額の株式売却益計上後も425億円と高水準を維持

有価証券残高の推移(億円)



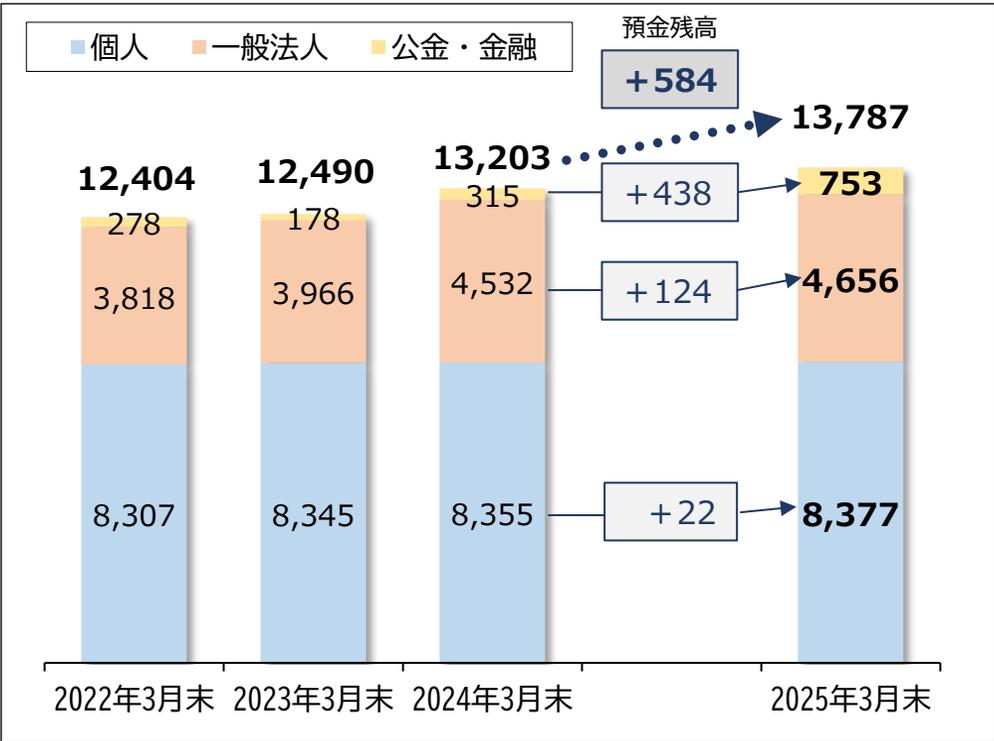
その他有価証券評価損益(億円)



# 預金・預り資産の動向

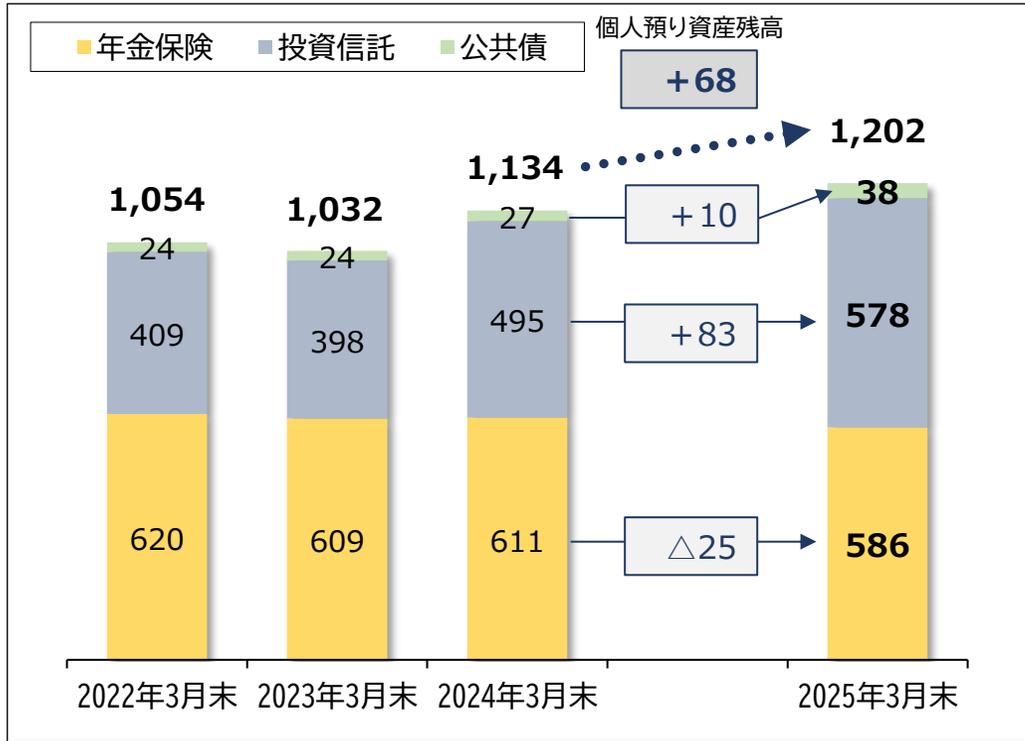
- ☑ 預金は、各セグメント(個人、一般法人、公金・金融)で着実に増加  
アセット拡大方針や金利上昇を踏まえ、要払性を中心とした法人預金の増加に継続的に取り組む
- ☑ 新NISAを含めた資産形成支援を積極的に推進。きめ細かなコンサルティングを徹底した結果、投資信託を中心として個人預り資産残高は増加基調を維持

預金残高の推移(億円)



※ 譲渡性預金を除く。

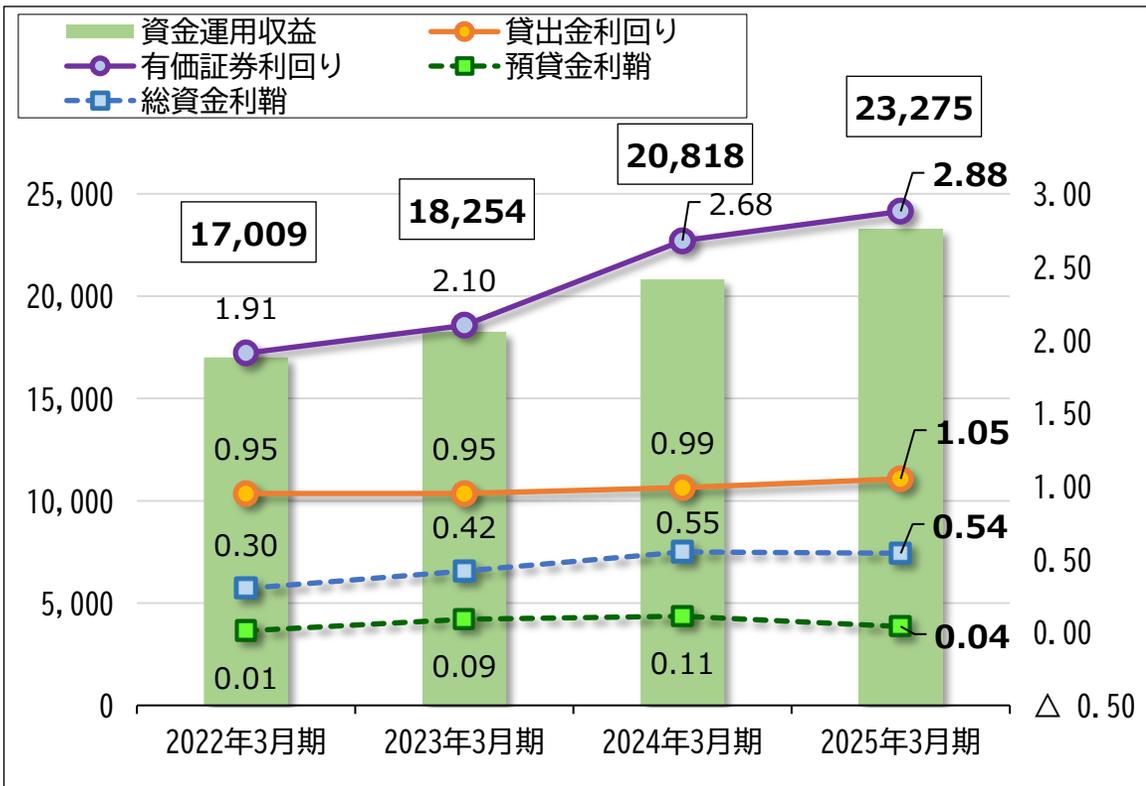
個人預り資産残高の推移(億円)



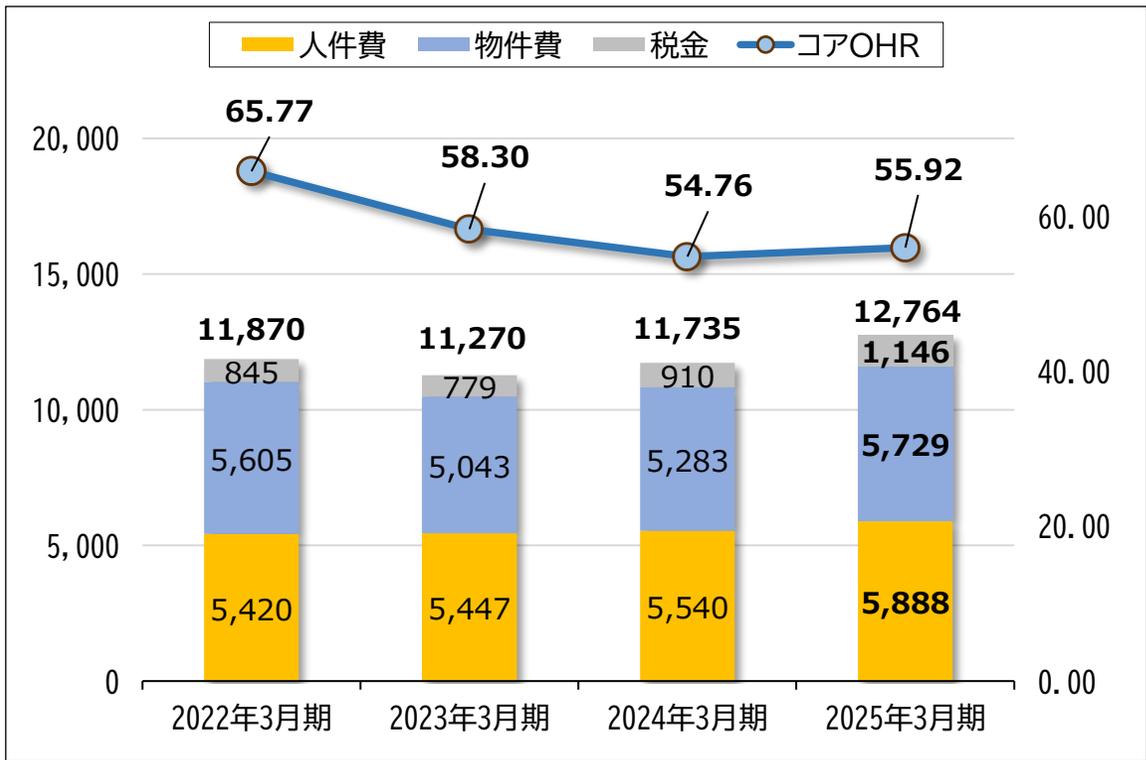
# 利回り・利鞘の推移/経費・コアOHRの状況

- ☑ 日銀マイナス金利解除以降、市場金利が上昇。**市場金利連動型の貸付を中心に利回り上昇が進む**
- ☑ 有価証券利回りは、**地銀トップクラスを堅持**
- ☑ 経費は、成長投資の位置付けである賃上げによる人件費の増加や行内インフラ整備による物件費の増加により、前年比10億円増加するも、コアOHRは引続き低位

資金運用収益・利回り・利鞘の推移(左軸:百万円、右軸:%)



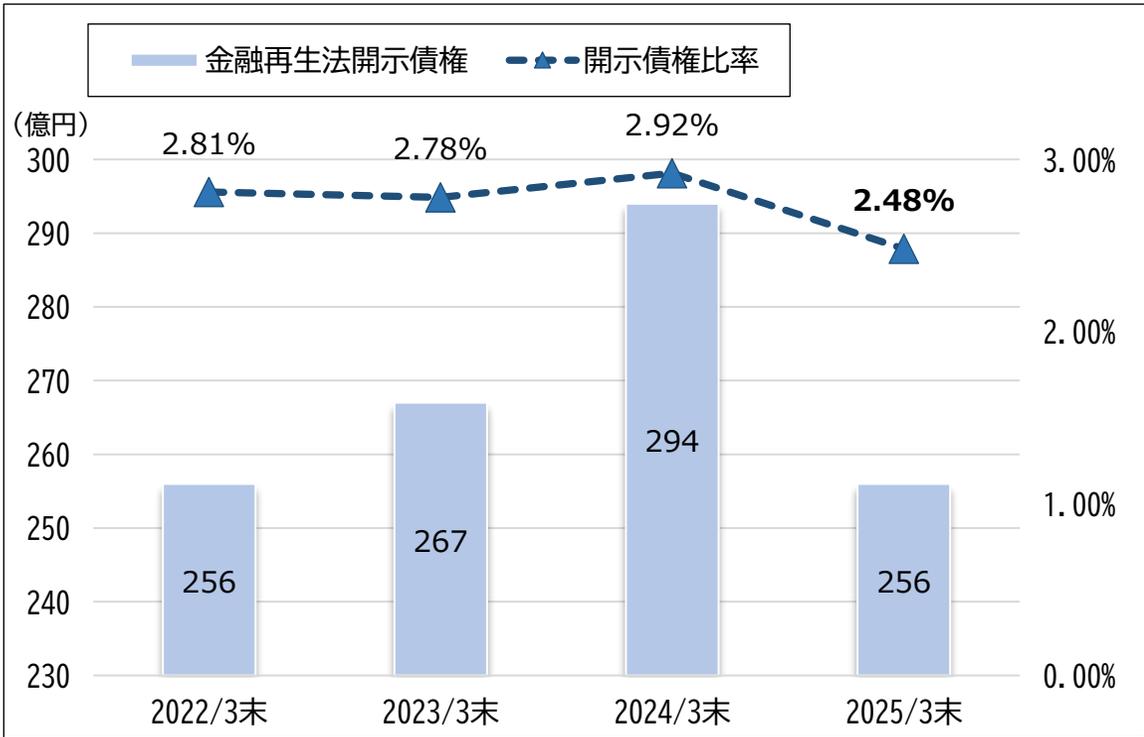
経費・コアOHRの推移(左軸:百万円、右軸:%)



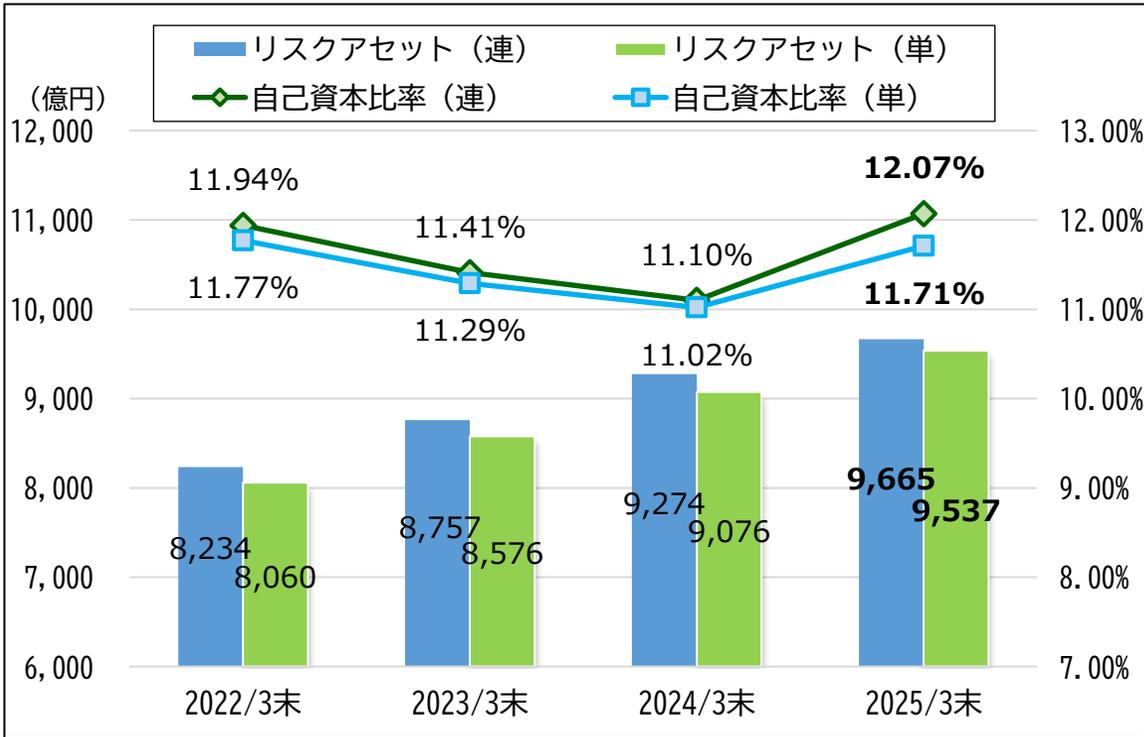
※ コアOHR = 経費 ÷ 業務粗利益 (除く 国債等債券損益)

☑ 事業再生支援の継続的な取り組み等により、開示債権残高は減少に転じる。**開示債権比率は0.44ポイント改善**  
 ☑ 積極的なリスクテイクの結果、リスクアセットは大きく増加も、戦略的な自己資本の積み上げにより、**自己資本比率は上昇**

## 金融再生法開示債権

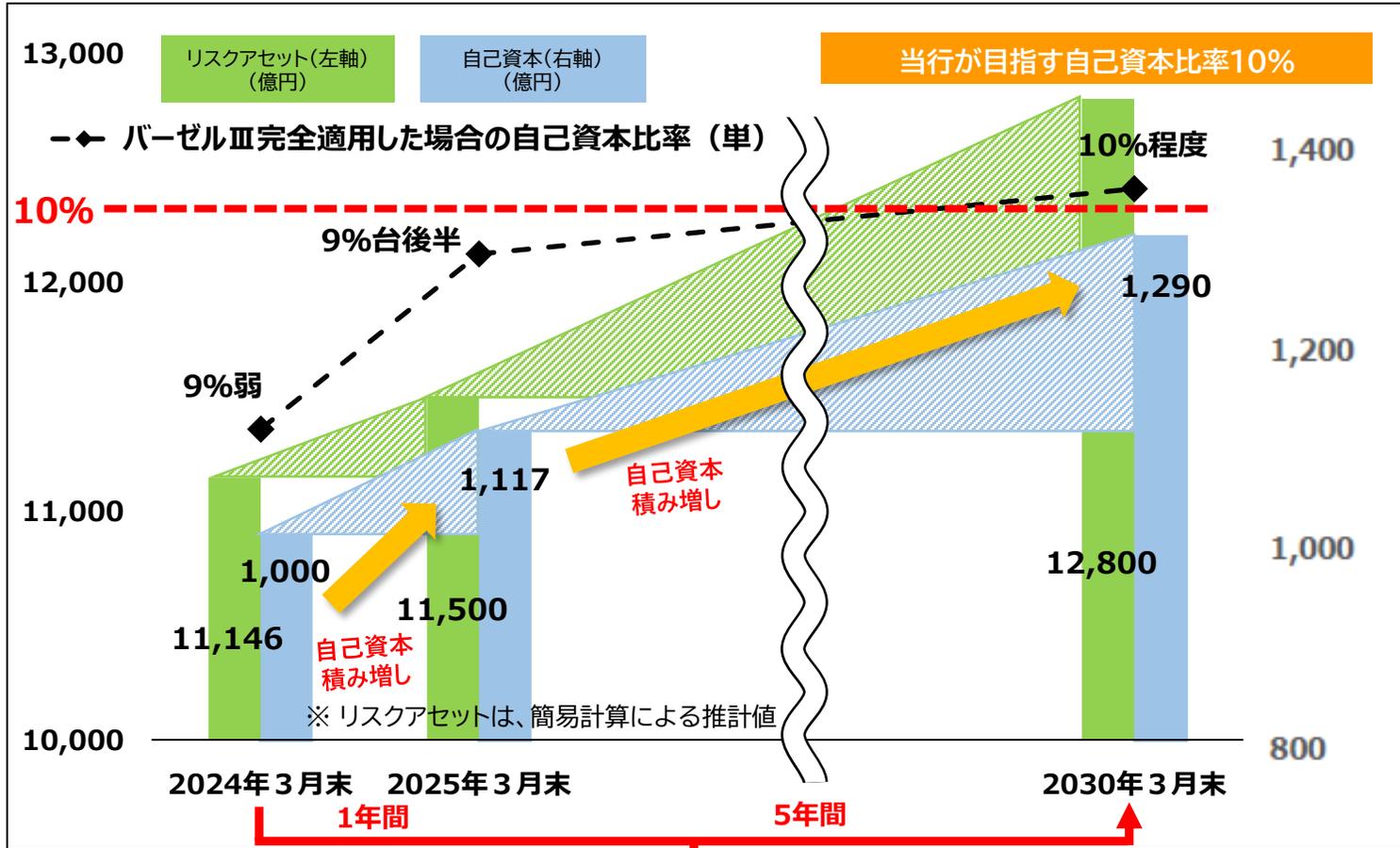


## 自己資本比率・リスクアセット



# バーゼルⅢ最終化への対応

## バーゼルⅢ完全適用した場合の自己資本比率(単体)シミュレーション



リスクアセットの増加額 +1,654億円  
 自己資本の増加額 +290億円  
 バーゼルⅢを見据えた自己資本比率の増加率 +1.06%

☑2024年5月10日決算発表での公表  
 「銀行に求められる高い健全性と追加的なリスクテイク余力を有した資本運営を堅持するための最適な資本水準として、自己資本比率10%程度を目線として、今後も資本運営を継続」

### 取組結果

☑当初の計画どおり、2025年3月期は有価証券評価益の一部を実現益として計上し、100億円を自己資本へ積み上げ完了  
 ☑2030年に目標とするバーゼルⅢ完全適用後の自己資本比率は、「当初掲げた10%程度」へ順調に到達見込み

※当行はバーゼルⅢ最終化早期適用を実施しておりません。本表のリスクアセット額は完全適用を実施したと仮定して簡易算出した額です。

☑ 当初の公表通り一時的に配当性向を引下げ、100億円を資本へ積み上げ

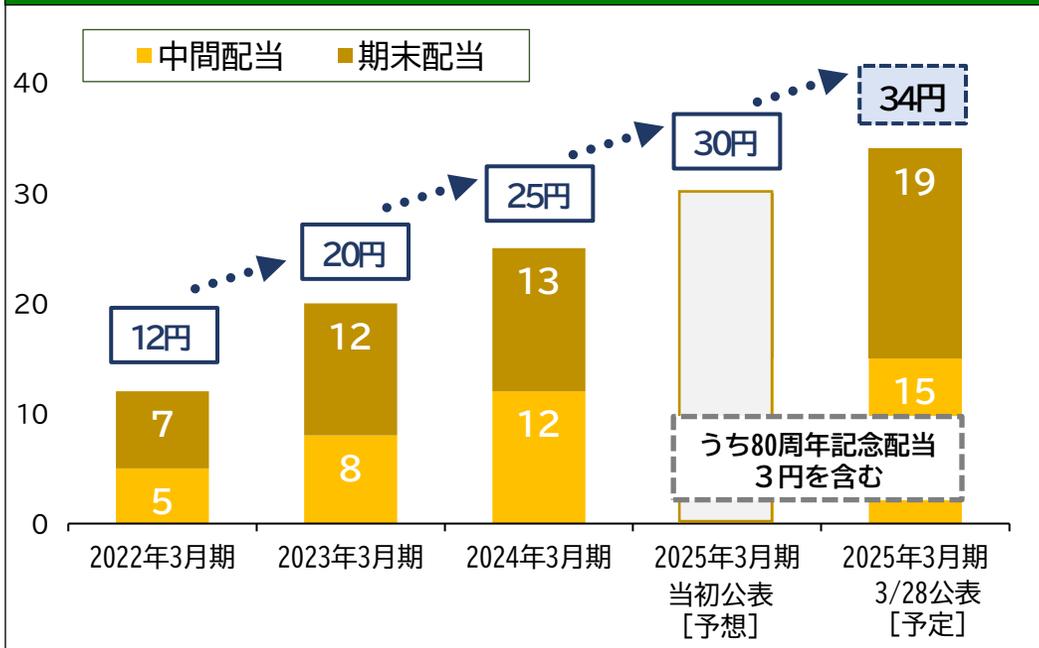


当期純利益の当初予想比上振れ額(+13億円)については、そのほぼ全額を株主さまへの還元に充当

☑ 期末配当をさらに4円積み増し 年間配当は、2024年3月期25円 → 2025年3月期34円(うち3円は記念配当)予定

☑ 10億円を上限とする自己株式の取得を実施

配当実績と予想(2025年3月28日公表)



自己株式の取得(2025年3月28日公表)

● 10億円を上限に市場買付にて実施中。

取得種類の株式	普通株式
取得株式の総数	1,200,000株(上限) 発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合: 1.88%
取得価額の総額	1,000,000,000円(上限)
取得期間	2025年4月1日 ~ 2025年9月30日
取得方法	市場取引

- ☑ 25年3月期は、「バーゼルⅢ完全適用を見据えた特別な期」と位置付け、多額の株式売却益を計上し自己資本を積み増し
- ☑ 26年3月期も、特殊要因のなかった24年3月期比で大幅な増益見通し

連結 (金額単位:百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	2024/3期比 増減率(%)
経常利益	3,546	5,233	6,326	9,223	18,959	9,200	△ 0.2
親会社に帰属する当期純利益	2,291	3,486	4,203	5,284	13,354	6,000	7.2
1株当たり当期純利益	34円41銭	52円33銭	65円40銭	83円02銭	208円95銭	95円24銭	—

単体 (金額単位:百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	2024/3期比 増減率(%)
経常利益	3,214	4,794	5,921	8,887	19,228	9,300	4.1
当期純利益	2,199	3,375	4,106	5,204	13,951	6,500	13.0
1株当たり当期純利益	33円04銭	50円66銭	63円89銭	81円78銭	218円29銭	103円17銭	—

26年3月期から株主還元方針を変更  
(25年4月25日公表)

- バーゼルⅢ完全適用を見据え、自己資本の積み上げを前倒しで実施済
- 資本基盤の確立とともに、「リスクテイクによる一層の収益力向上」「株主還元の強化」に取り組む
- 長期ビジョン「ファーストバンク VISION10」で掲げる「お客さま」「株主」「役職員」「地域」の4つのステークホルダーの利益のバランスを考慮

## 新株主還元方針

(25年4月策定)

- 配当性向35%以上
- 機動的な自己株式の取得

(基本方針)  
高い健全性と最適な資本水準とのバランスを考慮し、かつ安定的な配当の継続

**配当性向35%以上**  
着実に利益水準を高めることにより1株あたり配当金の増加を目指す

**柔軟かつ機動的な自己株式の取得**  
業績・自己資本の状況、成長投資の機会などを勘案したうえで実施

これまでの株主還元方針 (22年5月策定)

継続的かつ安定的な配当実施を基本方針とした上で具体的な還元方針を明示

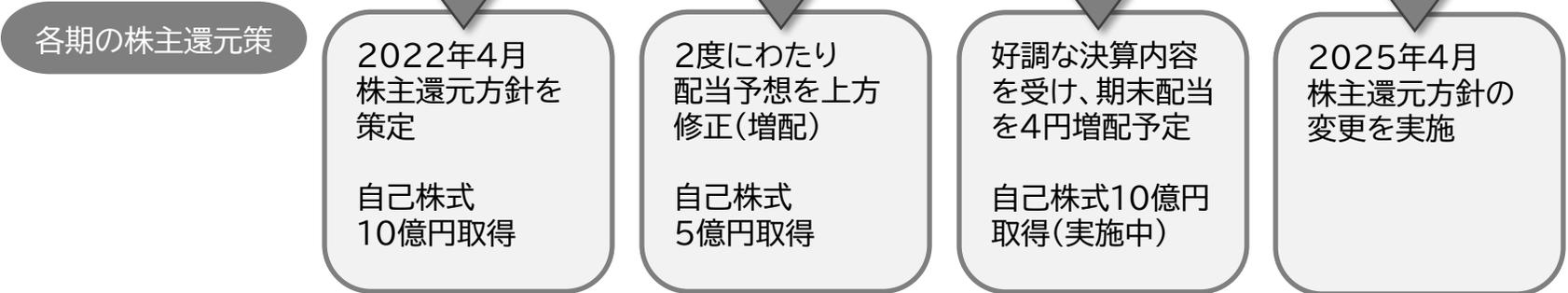
①親会社株主に帰属する当期純利益に対する配当性向の水準を30%程度を目安とする  
※利益水準にかかわらず、1株あたり年間12円の配当を下限とする

②柔軟かつ機動的な自己株式取得を実施する

# 2026年3月期の配当予想

- ☑ 新たな株主還元方針に基づき、**25年度の年間配当予想は、36円(中間・期末ともに18円)を想定**
- ☑ 長期ビジョンに掲げる「お客さま」「株主」「役職員」「地域」を持続的に高める取り組みを進める中、利益の還元についても更なる充実を図る

項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
連結当期純利益(百万円)	3,486	4,203	5,284	13,354	6,000
配当金総額(百万円)	799	1,279	1,588	2,167	2,268
中間配当(円)	5	8	12	普通配当 12 記念配当 3	18
期末配当(円)	7	12	13	19	18
年間配当(円)	12	20	25	34	36
連結配当性向(%)	22.9	30.6	30.1	16.3	37.8



- 本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものです。特定の有価証券等の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された内容の全部または一部は、予告なしに修正または変更される場合があります。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。当該記述につきましては、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等の要因により、実際の数値と異なる可能性があることにご留意ください。

#### 本件に関するご照会先

 富山第一銀行 総合企画部

**TEL** 076-424-1219

**FAX** 076-491-4162

**E-mail** [souki@first-bank.co.jp](mailto:souki@first-bank.co.jp)

**URL** <https://www.first-bank.co.jp/>